

大学学部進学留学生に対する 「漢字系統樹」指導の試み

- 東京外国語大学留学生日本語教育センターにおける実践報告 -

柏崎 雅世

(東京外国語大学留学生日本語教育センター)

mkashiwa@tufs.ac.jp

1. はじめに

東京外国語大学留学生日本語教育センター（以後本センターと略す）は、国費留学生の日本語教育機関である東京外国語大学附属日本語学校として1970年発足し、1992年、留学生教育教材開発センターと統合改組し、今日に至っている。留学生は来日後、かな学習から始め、翌年4月には日本の大学で日本人学生と伍して大学教育が受けられる能力を身につける。この1年間の短期集中予備教育に関しては、すでに38年の歴史を持っており、大きな成果をあげてきた。

しかし、ここ数年前から、学習者の出身地域の多様化、学習スタイルの多様化に伴い、従来高い指導効果をあげていた漢字教育に関して、変化が見られるようになってきていた。そこで、従来の漢字指導とは異なったアプローチで、漢字指導の体系化を試みてきた善如寺俊幸「漢字系統樹」¹研究に基づいた漢字教育を指導に組み入れることが可能かどうかについて、2008年度の既習者クラス、半既習者クラスを対象に導入を試み、今後の方向性を探ることにした。本稿はその春学期（4月－7月）における実践報告である。

2. では「漢字系統樹」指導の試みへの前段階として、2-1. で本センターの従来の日本語教育カリキュラムについて、2-2. 「漢字系統樹」の概要、2-3. で、「漢字系統樹」を取り入れる試みの動機を述べる。以下、3. 実践内容、4. 「漢字系統樹」指導に関する学生の評価、5. 春学期期末試験（7月実施）結果、6. 「漢字系統樹」を教育プログラムとして実施する際の問題点、7. 今後の課題の順で述べる。

2. 「漢字系統樹」指導の試みへの前段階

2-1. 本センターにおける大学学部進学留学生に対する日本語教育

本センターの大学学部進学留学生の教育プログラムは一年コースプログラムと呼ばれている²。学習者は、自国における日本大使館で選抜を受け、日本の文部科学省奨学金を得て来日した18歳から21歳までの国費留学生である。4月来日で、原則はかな教育からスタート、翌年4月には日本の大学に入学する1年間のプログラムであるが、夏休み・冬休み、試験期間などが入るので、初級から上級まで授業時数の実質は9ヶ月の日本語教育である。

¹ 善如寺俊幸（本センター准教授）開発の漢字系統の相関図。詳細は2-2. で述べる。

² ほかに、研究留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修生、大学間交換留学生、私費研究生等を対象とする「全学日本語プログラム」も実施している。

教育の最終目標は、①「講義を聴く」「演習で発表する」「参考文献を読む」「レポートを書く」能力の養成³、および②人文社会あるいは自然科学の基礎学力の養成である。①の日本語教育に関する指導法としては、直接法を用いて、文型を積み上げていく文型シラバスを中心として、場面や機能、表現を組み込み、さらに、4技能のスキルを養成するカリキュラムが組まれている。教科書は下記のようになっている。

4月～7月：本センター著『初級日本語』（語彙：2000語、漢字：新出600字 読みかえ172字）

9月～11月：本センター著『中級日本語』（語彙：2400語、新出漢字：531字）

1月・2月：本センター著『上級日本語』及び総合日本語プログラム（語彙・漢字数は制限なし）

これらの教科書を使用しながら、漢字教育は以下のようにカリキュラムに組み込まれている。まず日本語授業の進め方であるが、口頭で1)文型・語彙導入、2)場面に即した文型練習、3)本文会話練習と進め、その後にはじめて、学習した語彙の漢字を導入する。文型・語彙導入→練習→本文会話→応用会話→漢字練習という繰り返しの練習（スパイラル学習）を積むことにより、文型・語彙そして文字の定着を図るのである。漢字学習は、新出漢字の記憶の限界と経験的に考えられている13字を毎日導入し、「読み」練習を宿題とし、翌日「書き」のクイズを行う。学習者は語彙の意味については何度も繰り返し口頭練習の中で理解しているので、その意味・表音がどのように表記されるかを漢字指導の中では学び覚える。このような指導法で今までは確かな効果をあげてきたのである。

2-2. 「漢字系統樹」の概要

善如寺俊幸開発の「漢字系統樹」は「漢字をその主たる構成要素（パーツ）⁴に基づいてグループ分けしたもの」（善如寺2004）である。意味を持つ最小単位のパーツに漢字を分解し、「一つの漢字を構成するパーツのうち、字源的にその漢字を支配していると考えられるパーツに着目し、その共通する漢字をグループ化し、相関を探って、パーツの数の少ないものから系統立てたもの」（同掲）である。漢字パーツが最小単位のものを第一系統、それに何らかのパーツや印が加わったり、複雑化したものを第二系統、さらに、それらを組み合わせた最大単位が第三系統という三層構造で構成されている。例えば、「日」を第一系統とする漢字の場合、「莫」が第二系統、そして第三系統として「暮」「幕」「墓」「模」「募」に拡大する。また、「止」を第一系統とする漢字は、第二系統に「正」、第三系統に「政」「征」「整」と拡大する。すなわち、それぞれ意味や要素が加わって、字形が複雑化していくことが全体として体系化されている。この体系化に当たっては、基本的には白川静の字説を基としている。丁寧に字源と成り立ちを検証した結果としての相関図で、信頼性の高いものとなっている。

2-3. 「漢字系統樹」を指導に取り入れる試みの動機

2-1. で述べたような、緻密に組まれた本センターの従来型漢字学習では指導しきれない学生がここ数年前から、来日するようになった。それは、学習者の出身地域の多様化に伴って、学習スタイルも

³ この到達目標に基づいて2006年「JLCスタンダード（案）」も策定され、それぞれの技能の指導は、このスタンダードを基準にしながら、カリキュラム等の見直しも行い、妥当性の検証を進めている。詳細は坂本（2007）を参照のこと。

⁴ パーツという用語は「漢字系統樹」で使用される。必ずしも「偏」や「旁」だけを表すものではなく、漢字を構成する部分であることを示している。

多様化し、従来の指導法にはなじめない学生が出てきたのである。それは、大きく2つの傾向としてまとめることができる。第一は「漢字学習を体系的に学びたいという要求」、第二は「緻密に組まれたカリキュラムに強制されるのではなく、自律的に学びたいという要求」である。

第一の「漢字学習を体系的に学びたいという要求」を持つ学習者には、さらに2通りある。まずは“筋道を立てて学習項目を体系化しながら学ぶスタイルを持つ学習者”である。従来型の漢字学習は本文会話に出てきた場面に即した語彙の漢字を学習するため、漢字の意味やパーツはまったく系統だっていない。一つ例を挙げて示す。漢字指導のNo.18は『初級日本語』15課に出てくる語彙の一部の漢字が13字導入される。「体、登録、受ける、心配、払う、氷、光、平和な、私鉄、生活、証明書」の下線の漢字が導入漢字である。15課で学ぶ文型は、「～なければならない、～でもいい、～時、形容詞く(に)する、その他」である。すなわち、「外国人登録証明書を持たなければならない、病気の時、お金を払わなければならない、入院した時心配する、体をじょうぶにする」などの文型と語彙の組み合わせで提出されている。これらを練習した後に漢字表記を学ぶのである。文型との関連語彙であることはこれで分かるが、一方、漢字そのものは、全く何の関連性もなく、また共通したパーツもなく、これらを系統立てて学ぶことはできない。

次に、「漢字学習を体系的に学びたいという要求」を持つ学習者のタイプとして、“暗記することが苦手な学習者”をあげることができる。文型・語彙練習・会話練習と進み、語彙が積みあがった後に漢字学習に入るのだが、暗記が苦手な、まだ十分に語彙をおぼえきれていない学習者にとっては、漢字導入の際に、まずは意味の理解・記憶から始めて、表記を覚えるという二重の記憶負担になってしまう。それを毎日13字ずつ、絶え間なく続けていくために、結局、漢字を習得できないという結果を生じてしまうことがある。

第二の「緻密に組まれたカリキュラムに強制されるのではなく、自律的に学びたいという要求」を持つ学習者としては、“毎日遅れず、休まずに授業に出ることが苦手な学習者”をあげることができる。自分のペースで生活し学習することを好むため、時には授業に遅刻したり、休んだりすることもある。本センターの日本語教育は、日々非常に速いスピードで学習項目をこなしていくので、一日でも休むと、多くの文型と語彙が未習となってしまう。その結果、未習語彙の漢字を覚えなければならないという事態も生じ、結局、語彙の意味と漢字の字形という二重の記憶負担を強いることになるのである。

このようなことから、字源に基づいて共通するパーツをまとめて体系化された「漢字系統樹」を、漢字生成の物語として説明しながら導入することによって、上記のような学習者の問題を解決できないだろうか、というのが今回の試みに至った経緯である。

3. 「漢字系統樹」指導導入の試みと実施内容

2008年度の文字・語彙カリキュラム担当者として、「漢字系統樹」開発者の善如寺俊幸、ほかに、小林幸江、および筆者が担い、試みが実施された。

3-1. 対象学習者

「漢字系統樹」を指導する対象学生のクラスは、既習クラス(8名:中級日本語前半相当を学習済み・学習済みの漢字400字ぐらい)と半既習クラス(8名:初級日本語後半途中まで学習済み・学習済みの漢字200字ぐらい)の2クラスである。学習者の国籍は、韓国(2名)、ロシア(3名)、ベトナム(2名)、オーストラリア(1名)、シンガポール(1名)、キルギス(1名)、ウズベキスタン(1名)、ポーランド(1名)、モンゴル(1名)、カンボジア(1名)、フィリピン(1名)、アルゼンチン(1名)の16

名である。既習クラス・半既習クラスを対象としたのは、いきなり未習で、従来型漢字学習に問題がある学生を指導するにはまだ実施上の問題点等の検証ができていないこと、また、この2クラスであれば、漢字生成の解説を何とか文型語彙をコントロールした日本語で説明できると考えたからである。

3-2. 使用テキスト

善如寺俊幸作成『やさしい漢字学習—初級日本語準拠』（学内印刷）で、『初級日本語』の5課を単位に提出される漢字で、共通するパーツごとにまとめたものである⁵。漢字の成り立ちの絵、漢字の意味、音訓両方の読み、音訓を用いた熟語が記されており、漢字一字ずつに番号が振られている。初級は全部で767字導入となっている。これは、本センター著『初級日本語漢字練習帳』の600字より多くなっている。

3-3. 実施要領

3-3-1. 授業

毎日45分、テキストに基づき字源（漢字物語）の説明を行うとともに、パーツの字形認識に留意させながら15字を導入する。字源説明は、学生が理解できる語彙と文型で紹介する（巻末参考資料①参照のこと）。音読み・訓読み、さらに熟語も簡潔に説明して導入する。

3-3-2. 宿題

半既習クラスでは、音読み・訓読み・熟語を復習し、各字を10字ずつ練習するための練習シートを配布した。既習クラスでは、善如寺俊幸作成『やさしい漢字学習初級熟語集』（学内印刷）にも目を通すようにさせた。

3-3-3. クイズ

漢字導入をした翌日、学習した15字について読み・書きのクイズを行う。また、まとめクイズとして、毎日のクイズ以外に、1～200、201～400、401～500、501～600、601～700、701～767を各範囲の学習後に行った。

4. 「漢字系統樹」指導に関する学生の評価

「漢字系統樹」による指導を開始して1ヶ月目にアンケート（巻末参考資料②参照のこと）を実施した。アンケート対象は2クラス16名で、その結果の中で、注目すべき点をここに取り上げる。

1. 今漢字のべんきょうは好きですか。

とても好き：10名　まあまあ好き：4名　どちらでもない：2名

2. 日本に来る前、漢字のべんきょうは好きでしたか。

とても好きだった：6名　まあまあ好きだった：6名　どちらでもない：1名

あまり好きではなかった：3名

上記の結果を見ると、来日前の漢字学習では「あまり好きではなかった」と答えた学習者が3名いたが、「漢字系統樹」学習後は、1人もいなくなっている。一方で、来日前には「とても好きだった」と答えた学習者は6名だったが、「漢字系統樹」の学習については10名に増えている。「6. 今、クラスでしている漢字のべんきょうのしかたをどう思いますか。」という質問に対しては、以下のような回答が得られ、学習者が漢字の勉強を楽しんでいる様子が窺われる。

⁵ 『初級日本語』から完全に独立することができないのはこのプログラムの抱える宿命で、最終的に試験成績によって大学配置案が決定されるため、統一試験を行う必要があるからである。

半既習クラス

- ・はやいですが、がんばればよくおぼえることもべんきょうすることもできます。
- ・先生ははっきり説明するので、よくわかります。
- ・いいと思います。漢字の歴史とか熟語など色々なことを漢字について習って、おもしろいと思います。
- ・とてもおもしろくて、効果的なじゅぎょうだと思います。
- ・今、漢字のべんきょうがとてもたのしいです。少しむずかしい方がいいと思います。
- ・とてもいいです。
- ・漢字の勉強の仕方はいいと思いますが、もっと速く進めたほうがいいと思います。
- ・漢字の説明はとてもおもしろいですが、だんだん知らない漢字が出てきますから、こんなに速くべんきょうするのはちょっとむずかしいです。

既習クラス

- ・おもしろいと思う。それに、もっとおぼえやすい。
- ・とても満足しています。
- ・前にしていたべんきょうとぜんぜん違って、とてもおもしろいと思います。パーツを教えてもらうから、覚えやすくなったと思います。
- ・善如寺先生の説明はとてもおもしろくて、覚えやすい。
- ・とてもおもしろい。漢字の始めと演变（ママ）は重要だと思います。
- ・熟語と漢字のテストがもっとたくさんあってほしい。
- ・とてもおもしろくて、漢字がもっと覚えやすくなった。
- ・善如寺先生がやさしく説明して下さいますから、とても覚えやすいんです。いいと思います。

5. 一年コース春学期期末試験(7月実施)結果

春学期期末試験は、初級終了の試験であり、一年コース全員の統一試験となっている。これは、最終的に大学進学が関係してくるため、同一試験を実施する必要があるためである。「漢字系統樹」はあくまでも、2008年度は試みであることから、試験は未習学生を対象として行われてきた従来型漢字指導の教科書準拠試験（読み120問、書き80問）で実施された。結果は下記の通りである⁶。

- ・「漢字系統樹」指導クラス学生（16名）平均点99点 100点6名
- ・従来型漢字指導クラス学生（36名）平均点88点 100点7名 欠点（59点以下）4名

もちろん、既習者クラスの学生は400字は既習漢字、半既習者クラスでも200字は既習であったことから、この結果が全面的に「漢字系統樹」の成果であるとは言い切れないかもしれないが、しかし、600字の範囲の漢字テストであることを考えると、やはり未習漢字の習得にも非常に効果があったことが窺われる⁷。一方、従来型漢字指導クラスでも100点が7名出ていることは、従来型の指導の有効性も同時

⁶ この結果は一年コース学生61名中、超既習者（日本語能力試験1級所有学習者）9名は除いている。

⁷ 2008年10月15日実施された中級前半の試験である秋学期中間試験の結果は以下の通りであった。

- ・「漢字系統樹」指導クラス学生（17名）平均点98点 100点1名

に示されていると言えよう。しかし、何と云っても欠点を取った学生が4名も出ているところに解決すべき問題が存在しているのである。

6. 「漢字系統樹」を教育プログラムとして実施する際の問題点

実際に「漢字系統樹」を授業において指導をしてみると、様々な問題点もあることが分かった。ここではその問題点について述べる。漢字の後の()内数字は漢字系統樹テキストの漢字番号であり、以下に挙げた例はそれぞれのケースにおける漢字の一部である。

6-1. 字形は同じだが、字源が異なる漢字

① 朝 (56) と 幹 (452)

「朝」の左側パーツは「草原から日が昇る」ことを示す一方、「幹」の左側パーツは字形は同じであるにもかかわらず、その示している意味は「吹流しの旗と竿(さお)」であり、漢字系統が異なっている。

② 井 (402) と 研 (403)

「井」は「井戸の枠」を示しており、パーツになると「形」(404)の左側の字形になる。すなわち、「枠と形をきれいに整えること」から「形」の字が生成されたのである。この系統としては、「型」なども入る。しかし、研(403)の右パーツは字形は同じであるが、示しているものは「男の人の頭に挿すかんざし」である。これも、字形は同じだが、説明が系統立てることができないものである。

③ 夫 (250) と 規 (668)

「夫」は結婚の時に正装をして、髪を上に乗せてかんざしを水平方向に挿している男性を示している。しかし、「規」の左パーツは字形は同じだが、コンパスを示している。

6-2. 旧漢字で説明できるが、新漢字では分かりにくいもの

① 学 (110) / 學

旧漢字の「學」は、×が縦に並んでおり、これは神殿の千木造りを表している。すなわち、神殿に子どもたちを集めて教えた学校である。この千木造りは「校」(270)や「教」(336)の漢字にもパーツとして入っているが、現在使用されている「学」はこの漢字物語で説明できなくなっている。

② 發 (396) / 發

旧漢字の「發」は出発前の足と弓を射る様子を表している。弓を射る・発する合図で戦いが始まる。しかし、現在の「發」を説明するためにこの旧漢字を提示する必要があるか、苦しいところである。

③ 価 (714) / 價

旧漢字の「價」の右パーツは、商品・貝の入った祭器に蓋をした図であり、「人」を加えることにより、人が決めた値段・価値という意味になる。「買」「貨」などお金に関係した漢字には「貝」がつくことはつとに知られているところであるが、同様の要素を持ちながら、新漢字になったために説明が難しくなっている。

6-3. 形声文字など、音が同じとして作られている漢字(意味説明ができない)

① 苦 (311) : 「にがな」という苦い味の草からきている。これは「古い野菜は苦い味がする。」と説明す

・従来型漢字指導クラス学生(34名)平均点89点 100点4名 欠点2名
中級漢字は同じスタートラインに立っているため、ここで明確に「漢字系統樹」の成果を示すことができたと言えよう。一方で、従来型指導で100点が4名いることは、やはり長い歴史を持つこの指導法の効果も高いことがわかる。

ることによって、なんとか説明がつく。

②甘(323)：字形は錠前(鉗カン)の形。甘い草の名「カン」と音が同じなので、「甘い」の意味になる。

③望(651)：遠くを望み見て、気を占ったり敵が倒れることを祈ったりすることである。音が同じで「亡」を使用した。この「亡」(648)は、忙(649)「心がここにはない様子のもと」、忘(650)「心から消えてなくなる」と系統だって説明できるが、「望」になると「音が同じ」と説明せざるを得ない。

6-4. 複雑な変化の経緯があり、説明が難しい漢字

①「庭」(252)は「廷(宮中の儀礼を行うところ)」と建物を表す「まだれ」と組み合わせさせて、「建物の中の中庭」を表す。「廷」のパーツは元は「壬」の下の線が長い字(テイ：儀礼を行う人)だったが、現在は「壬」(ジン・ニン：鍛冶屋のたたき台)が使われている。

②「起」(542)の「己」はもとは「巳」(蛇が鎌首をもたげている様子→起きる)であったが、今は己(541)(糸巻き・人がかがんだ形)となっている。

6-5. 歴史的に残酷な史実が根拠の漢字および性に関係した漢字

「首(290)／道(291)／県(292)」「取(297)」「民(304)」等は、漢字が生成された先史時代における残酷な史実に基づいている。また、「独(241)」「色(273)」などは性に関係しており、これらの種類の漢字を、教育の場に提示するかどうか、検討の余地がある。ちなみに、今回の試みでは、筆者担当クラスでは前者は重くならない程度に紹介したが、後者は成り立ちには触れなかった。

7. 教育プログラムに取り入れるための今後の課題

以上、春学期における試みでまだ途中の段階であるが、数々の解決しなければならない課題も以下のように見えてきた。

1) 6. で提起した問題点をどのように扱っていくか。

2) 今回は、既習・半既習者対象だったことで、字義説明を日本語で行うことができたが、初めて漢字を学ぶ学習者を対象として指導する場合には、テキストのさらなる整備の必要がある。そのためにはテキストに日本語で簡単な字義説明をつける(2008年度)、その英訳をつける(2009年度)ことを計画している。さらに、動画作成も検討したいところである。

3) 授業での導入の文字数の検討

今回は毎日15字だったが、初めて漢字を学ぶ学習者対象の場合には、字数を減らして、記憶負担を軽減する必要がある。

4) 音訓及び熟語の導入の検討

今回は音訓およびテキスト記載の熟語はすべて導入したが、初めて漢字を学ぶ学習者対象の場合には、基本的な用法の音読みまたは訓読みに限定し熟語の数を精選する必要がある。

以上の課題を解決することによって、2-3. で述べたような多様化した学生のニーズに答えられる漢字教育を実現していきたいと考えている。

参考文献

坂本恵(2007)「『アカデミック・ジャパニーズ』での教育項目について考える—JLC日本語スタンダードの作成に向けて—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33号

白川静(1996)『字通』平凡社

善如寺俊幸(2002)「漢字文化圏における漢字再編統一に向けて」*Quality Japanese Studies and Japanese Language Education in Kanji-Using Areas in the New Century*. The Chinese University of Hong

- 善如寺俊幸(2003)「日」の漢字系統樹『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』29号
善如寺俊幸(2004)「隹」の漢字系統樹『同上』30号
善如寺俊幸(2005)「卩」の漢字系統樹『同上』31号
善如寺俊幸(2006)「目」の漢字系統樹『同上』32号
善如寺俊幸(2007)「人」の漢字系統樹(1/2)『同上』33号
善如寺俊幸(2008)「又」の漢字系統樹(1/3)『同上』34号

参考資料① 漢字系統樹による指導・字義の説明(テキストの絵を見ながらの補足説明の例)

40. 口：口の形。パーツになると、祭りの時のお祈りの文を入れる入れ物・箱（祭器）を表す。
41. 肉：肉の形。
42. 心：心臓の形。
43. 手：手の形。左のパーツになると、手偏になる。
44. 門：神様の家の門。片方（一つ）のときは、戸になる。
45. 車：馬車を上から見た絵。
46. 舟：舟。洗面器（顔を洗うときの水を入れる器）も表す。
47. 刀：刀。パーツになると「リ」になる。
48. 方：横木に死んだ人の絵。ある方向（direction）へ向けて、悪いものを追い出す。
49. 糸：糸を巻いた形の絵。
50. 上：上。
51. 下：下。
52. 中：中。
53. 円：横に長いまる。Cf. 球の「まるい」は丸い
54. 早：太陽が昇っている。日の出。
55. 草：草原から日の出を表す。
56. 朝：月がまだ出ているが、日が昇っている。
57. 昼：太陽の場所を測っている。手の形は測っている（尺をとっている）形。
58. 春：太陽に手を当てて、暖かい。
59. 明：月と太陽の光。
60. 夕：夕方、月が薄く出ている。
61. 名：神様に肉をさし上げて（供えて）、名前をつける儀式(ceremony)
62. 夜：「大」は大人が寝ている字（なべふたと人偏は「大」の変形）。月が出ている。
63. 金：土の中に金がある。金だけでなく、金属（metal）全部を表す。
64. 行：十字路に行く。
65. 氷：氷を表す。パーツになると「ン」となる。
66. 冬：糸の終わりを結んだ形に氷で、季節の最後を表す。パーツになると最後を表す。
→終：糸の最後：終わり
67. 秋：作物（稲 rice）を火で焼く。たくさん取れたことのお礼。
68. 夏：正装の（フォーマルな）頭と足。夏祭りで、秋に米がたくさんできるように祈った。

69. 年：稲をかぶって、男の人が祭りに踊る。一年になる。

Cf. 子どもが稲をかぶって踊る。→季

女の人が稲をかぶって踊る。→男の人に続いて女の人が踊る。任せる。→委ねる

70. 休：木の下で人が休む。

71. 林：木がたくさんあるところ。

参考資料②

漢字の勉強かんじ べんきょうについてのアンケート(questionnaire)

2008年5月

1. 今、漢字のべんきょうは好きですか。

- とても好きです。
- まあまあ好きです。
- どちらでもないです。
- あまり好きではありません。
- ぜんぜん好きではありません。

2. 日本に来る前、漢字のべんきょうは好きでしたか。

- とても好きでした。
- まあまあ好きでした。
- どちらでもなかったです。
- あまり好きではありませんでした。
- ぜんぜん好きではありませんでした。

3. 漢字のべんきょうはむずかしいですか。

- とてもむずかしいです。
- まあまあむずかしいです。
- どちらでもないです。
- あまりむずかしくないです。
- ぜんぜんむずかしくないです。

4. 「むずかしい」とこたえた人に聞きます。なにがむずかしいですか。

- おぼえることがたいへんです。
- どこがちがうのか、よくわかりません。
- そのほか ()

5. 日本に来るまえに漢字をべんきょうしてきましたね。そのとき、どのようにべんきょうしましたか。自由に書いてください。

6. 今クラスでしている漢字のべんきょうのしかたをどう思いますか。